

自動車 NO_x・PM 法に係る依頼試験業務の実施状況について

山崎 実 藤田 進 小谷野 眞司 岡村 整* 小池 民男** 安齊 祥悟

(*東京都水道局 **元・東京都環境科学研究所)

1 はじめに

東京都環境科学研究所では、国内で大型車NO_x・PM法適合試験を実施できる公的機関が少ないことから、平成11年度より依頼試験業務を開始した。ここでは、当所における平成19年度～平成22年度までの依頼試験業務の実施状況や試験車両等を分析した結果を報告する。

2 依頼試験の推移

図1は各年度の依頼件数の総数、実施台数、残り預かり台数の推移を示す。残り預かり台数は、総数から実施台数を引いたもので、次年度の総数に繰り越される。総数は、平成20年度に約50件のピークがある。実施台数は、年度ごとに若干のばらつきがあるが約25件の試験を実施している。残り預かり台数は、年度が進むにつれ、試験猶予期間が満了となり、対象車両が減少してきたことから、平成22年度の残り台数は数台となった。こうした減少傾向は他の公的試験研究機関についても同様である。

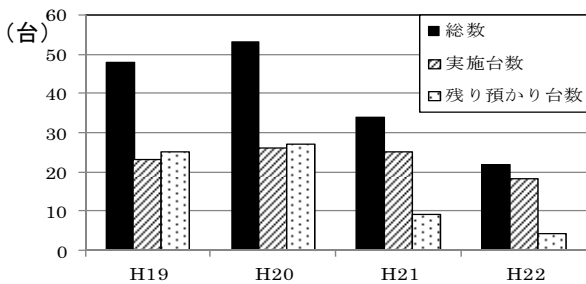


図1 依頼試験台数推移

図2は各年度の依頼試験を実施した車両の登録地域を示す。首都圏が比較的多い。

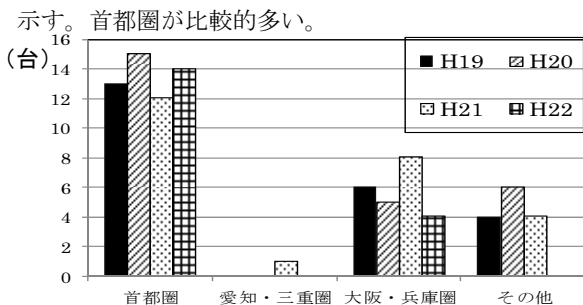


図2 車検登録地域

図3は各年度の依頼試験を実施した車両種類別の台数を示す。種類別としては、高価で車両寿命が長い、バスや医療防疫車が多かった。

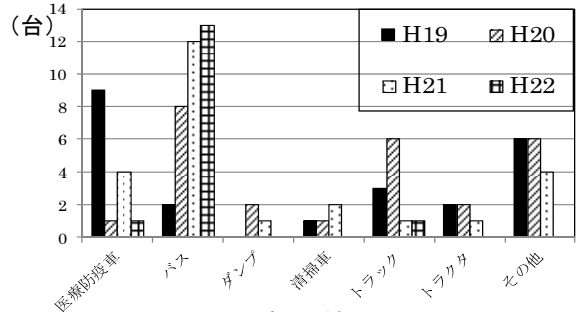


図3 車両種類

図4は各年度の依頼試験を実施した車両の初度登録年を示す。平成8年～平成11年度の初度登録車が比較的多い。これは、試験を実施した平成19年～平成22年度に、平成8年～平成11年度初度登録車の試験猶予期間満了時期が重なったことが要因と思われる。

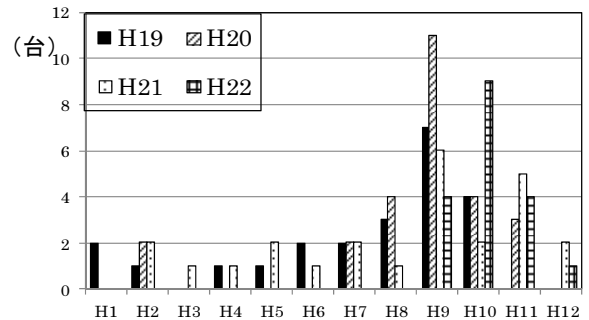


図4 初度登録年

図5は各年度の依頼試験の排ガス試験実施結果を示す。不合格が数件あるが全体的に合格率は高い。

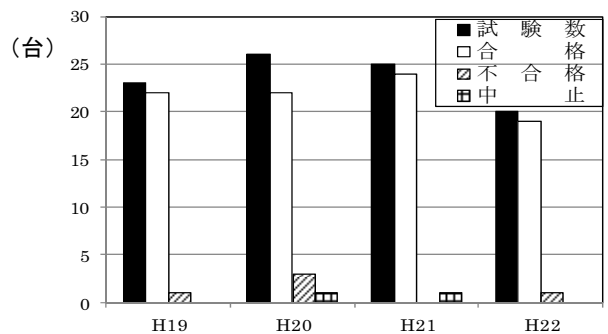


図5 排ガス試験実施結果

3 まとめ

依頼試験業務の実施状況は、法の規制により、総数は平成20年度をピークに減少し、平成22年度の残り預かり台数は数台となった。試験車両の登録地は首都圏、車両種類はバスや医療防疫車が多かった。